

つくば・水戸フィルハーモニー合唱団第49回演奏会

シューマン作曲「レクイエム」Op.148

モーツァルト作曲「ディヴェルティメント」Kv.136／ハイドン作曲「天地創造」よりアダムとイヴの詠唱



主催 つくばフィルハーモニー合唱団

共催 水戸フィルハーモニー合唱団

後援 茨城県 茨城県教育委員会
つくば市 つくば市教育委員会
土浦市 土浦市教育委員会

2017年11月11日(土) 18:45開場 19:00開演
つくば市ノバホール

モーツァルト「ディヴェルティメント」Kv.136

休憩

シューマン「レクイエム」Op.148

ハイドン「天地創造」より
アダムとイヴの詠唱

指揮 佐藤 宏之
合唱指揮 佐藤あけみ

ソプラノ 清水 麻依
アルト 小松崎裕子
テノール 位高 優
バス・ナレーション 藪内 俊弥

合唱 つくば・水戸フィルハーモニー合唱団
管弦楽 東京ロイヤルフィルハーモニー管弦楽団

つくば・水戸フィルハーモニー合唱団メンバー

(パート別・五十音順)

- | | | | |
|---|--|---|--|
| ●ソプラノ●
青柳恵美子
秋澤 聖子
伊東 久子
小野 敬子
北口たか子
椎名 和子
◆関 佑子
大道寺 緑
富家 成子
仲田ちよ子
長谷川順子
古山 明子
皆葉 律子
山下 亮江
山野邊静子 | ●アルト●
安相 直子
猪川 真弓
大内久仁枝
小野 悦子
◆尾張 直美
加藤三和子
木下 信子
京谷 泰子
清野 治子
久保由紀子
◆後藤 敦子 | ◆五葉 幸子
島田富喜子
鈴木 和子
関 由美子
田中 秀子
角田 和子
芳賀 洋子
長谷川典子
深谷 和子
松川 春香
水野 孝子
山中 知子 | ●テノール●
木村 芳宏
下平 貴志
野本誠一郎
長谷川 眞

●バス●
◆浅川 雅志
糸賀 淳晃
大山毅一郎
斉藤 信夫
水野 陽允 |
|---|--|---|--|
- (◆印は
パートリーダー)

〈音楽・運営スタッフ〉

- | | | | |
|------------|---|----------------|--|
| 顧問
練習助手 | 長谷部一男
五葉 幸子
関 佑子
長谷川順子
山下 亮江
練習ピアニスト
小松崎裕子
水村香代子
門間 理果
吉田 優子 | 企画室長
事務局 | 河原井忠男
糸賀 淳晃
仲田ちよ子
深谷 和子
古山 明子
水村香代子
佐々木紀夫
河村 逸平
樋口 誠
吉田 優子
後藤 裕子 |
| | | コーディネーター
編曲 | |
| | | 衣裳 | |

PROFILE プロフィール

指揮



佐藤 宏之

さとう・ひろゆき 指揮者・声楽家(二期会会員) 芸術監督。
東京ロイヤルフィルハーモニー管弦楽団常任指揮者。

声楽家として●武蔵野音楽大学器楽科卒業。ホルン奏者として演奏活動。バルカン地方民俗音楽研究のためブルガリアに滞在中、声楽家を志向。イタリア国立パルマ音楽院声楽科に現地合格。ミラノ・スカラ座トレーナー、アンジェロ・ベルタッキに声楽・発声法を師事。

●イタリアに於いてバリトン歌手として演奏活動開始。帰国リサイタルは各誌で好評。オペラ作品や宗教音楽の歌い手としての演奏活動を積む。ソプラノの中沢桂、作曲家の團伊玖磨、ヴァイオリニストの岩淵龍太郎など日本を代表する音楽家各氏と共に中国瀋陽音大客員教授として数次にわたり中国滞在。

最近の舞台●近年、イタリアはじめ日本国内よりゲストとして招聘され、大連、瀋陽(中国)、バンコック、国内でも、2年から8年にわたる鹿児島での声楽指導や茨城県女性大学、龍ヶ崎市、神戸・甲南大学、新潟県村上市に続き、本年5月27日には福島市、10月13日には遠野市での遠野健康塾(東北大学医学部高次脳医学研究所・サイクロロン核研究部 関教授 主催)で歌う。

指揮者として●指揮法を佐藤功太郎氏に師事。群馬交響楽団にて指揮者の修行。新星日響=現東フィル、神奈川フィルなどを指揮。プラハにおける、(外務省日本国際交流基金派遣)「ジュネス国際音楽祭指揮者」として欧州デビュー。その演奏により、ハンガリーのドホナーニ管弦楽団より招聘され、ブダペストのリスト音楽院ホールにおいて、オルフ作曲「カルミナ・ブラーナ」を指揮(CD発売中)。以来「残響の魔術師」と呼ばれている。

●ダブリンに招聘され「メサイア」初演260年記念演奏会を指揮するなど、約20年間イタリアのモデナを拠点に欧州に於いて指揮活動。

●2004年、2015年、福島県民文化センターに於けるベートーヴェン「第九」を指揮。

発声法の確立●発声訓練法による「声楽療法」の発展 筑波大学(医)橋口講師監修のもと、運動生理学の観点からの「佐藤式ベルカント発声法」を確立。国内および欧州で活動している、声楽家、大学や欧州の音楽院での声楽指導者を多数輩出。

声楽療法の発展●「佐藤式ベルカント発声法」は、筑波大学医学系教授・精神科医の斎藤環先生との提携による「医療試行Medical Trial」を通じて、精神に問題を持った方々の治療に有効であることが判明、学会発表を経て「声楽療法」へと発展。

●NPO法人「国際声楽療法協会」理事長。

合唱指揮



佐藤あけみ

さとう・あけみ 東京都出身。武蔵野音楽大学声楽科を卒業。1978~80年イタリア国立パルマ音楽院声楽科に留学。小田清、中澤桂、アンジェロ・ベルタッキの各氏に師事。オペラ「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「魔笛」などをレパートリーとする。

茨城オペラ10周年記念オペラ「夕鶴」のオーディション選考の結果つう役を得、好演。その結果NHKのTV番組でも「つうのアリア」で出演(尾高忠明指揮)。

リサイタルは東京、茨城、イタリアで行った。つくばフィルハーモニー合唱団常任指揮者はじめ、多くの合唱団を指導。ソリストとして「レクイエム」「マタイ受難曲」「メサイア」「第九」「口短調ミサ」などをオーケストラと共演した(三石精一、星出豊指揮)。合唱団の演奏旅行でドイツ、スペイン、イタリア、プラハのジュネス音楽祭で日本歌曲を歌うなど国際交流にも貢献している。土浦短期大学、中国内蒙古大学で学生を指導。子供たちにオペラの楽しさを知ってもらう為、オペラ「おこんじょうり」を茨城県内の小・中学校で公演している。

ソプラノ



清水 麻依

しみず・まい 福岡県出身。長崎県活水女子大学音楽学部声楽学科、グスタフ・マーラー音楽院(ウィーン)卒業。ウィーン市において数々のオペラやコンサートに出演。2007年同音楽院を首席で卒業。またウィーン国立音楽大学教授ヴィードナー・ツァヤック女史より「ソプラノと左手の為の作品」を献呈され、オーストリア現代音楽協会主催のコンサートにて初演。国内でも数々のオペラや宗教曲、交響曲などのソリストを務め、また日本を代表するギタリスト益田正洋氏と2012年よりシリーズ「ソプラノとギター」を開催。2016年には女性でありながら「美しき水車小屋の娘」(シューベルト)をフォーグル版でギターと全曲演奏するという快挙を成し遂げる。第22回市川市文化振興財団新人演奏家コンクール優秀賞、第29回飯塚新人音楽コンクール第3位、第2回東京国際声楽コンクール第1位、第15回「コンセール・マロニエ21」声楽部門入選。

アルト



小松崎裕子

こまつぎき・ゆうこ 茨城県立水戸第三高等学校音楽科(ピアノ専攻)卒業。東京音楽大学音楽学部音楽教育専攻卒業。

大学卒業演奏会を声楽にて選抜出演。モーツァルト作曲オペラ「魔笛」クナーベ役でオペラデビュー。ハイドン作曲オラトリオ「天地創造」アルトソリストを務める。

ムジカ・サンタンジェロ第15回フレッシュアーティスト・コンクール声楽部門第4位入賞。

これまで、声楽を野村陽子、佐藤宏之の各氏に師事。ピアノを江幡和子、大谷真美子の各氏に師事。ソルフェージュを小崎光洋氏に、和声楽を高橋理文氏に師事。

ピアノやソルフェージュで培った音楽性を生かし、合唱伴奏も務める。

メゾ・ソプラノからソプラノまで幅広い曲を歌い、レパートリーを増やしている。

テノール



位高 優

いたか・ゆう 28歳、テノール。埼玉県三郷市出身。高校時代から合唱を始める。

大学時代は米国に渡り、Denison University音楽学部声楽科を卒業。在学中はクラシックからミュージカルまで幅広く学び、ヘンデル「メサイア」にテノールソロとしても出演。

2013年3月より佐藤宏之氏にイタリアンベルカント発声法を師事。佐藤氏主催の魔法使いの弟子コンサートや、佐藤氏が指揮を務めるつくばフィルハーモニー合唱団公演(カルミナ・ブラーナ、マタイ受難曲等)に出演。

2014年12月、みさと混声合唱団「こもれび」主催クリスマス・コンサートにソリストとして出演。今年6月には、Hiromi Music Room発表会にてゲスト演奏者としてシューベルト「魔王」を、7月の第6回つくばソロフェスタではオペラ「トスカ」の「星は光りぬ」等を披露し、好評を得る。

得意言語は英語。クラシック以外にもアカペラ、バンドなど幅広く活動中。

バス・ナレーション



藪内 俊弥

やぶうち・としや 東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程独唱科修了。第12回日仏声楽コンクール第2位入賞。「藝大メサイア」バス・ソリストでデビュー。

その後「第九」(小林研一郎指揮、日本フィル)、モーツァルト、フォーレ、ドニゼッティ、スッペ「レクイエム」、デュリュフレ「レクイエム」(飯守泰次郎指揮、東京シティフィル)、パッハ「ヨハネ受難曲」、「マタイ受難曲」、「口短調ミサ」等のソリストを務める。

オペラでは、東京室内歌劇場公演サリエリ「ファルスタッフ」スレンダー、「カルメン」エスカミリーヨ、「ランメルモールのルチア」エンリーコ、「ドン・パスクアレ」マラテスタ、「愛の妙薬」ベルコーレ、「電話」ベン等、幅広く演じている。2011年、ルーマニア国立コンスタンツァ歌劇場に於いて、「ランメルモールのルチア」エンリーコ役でゲスト出演し、ヨーロッパデビュー。また同年12月に、中国西安人民劇院、北京人民劇院にて、ドン・ジョヴァンニを演じ、好評を博す。日本声楽アカデミー会員。

シューマン作曲「レクイエム」Op.148

シューマンがレクイエムを作曲していたとは!

シューマンの合唱曲って皆さんにとって、馴染みが薄いのでは? 私の場合、3つの詩 Op.29-3からZigeunerleben「流浪の民」、ロマンス第2集Op.91-3からDer Wassermann「水の精」(2008年全日本合唱コンクール・女声合唱の課題曲だった)ぐらいで、彼がレクイエムやミサ曲を、しかも生涯の最後にかけて書いていたとは、全く知らなかった。実際、この作品が演奏される機会は全くないと言って良いほど稀で、発売されているCDも国内盤では、1種類しかなく、馴染みのない人がほとんどだと思う。そんな演目を取り上げる今回の演奏会は、演奏する我々にとっても、ご来場の皆さんにとっても貴重な体験となることは間違いない。

他人の空似か?

私は、ほぼ同じ時期に別の団体で、パレストリーナ(1525~1594)のモテットDies sanctificatus(聖なるかなこの日)を、演奏する機会を得た。そこで、シューマン(1810~1856)のレクイエム Op.148 第2曲 Te decet hymnus(汝には讃美歌がふさわしい)を連想させるフレーズに気付いた。メロディだけでなく、フーガの掛け合いとして出てくる所もそっくり。「他人の空似か」とも思ったが、あまりにも似ている。どうやら彼は、パレストリーナを意識していたようだ。

クララと共に研究していた過去の偉大な作曲家の作品

彼は祖父がプロテスタント(ルター派福音教会)の牧師をしていた家系に育っている。そして大学時代、音楽でなく無理やり法学を学ぶことを余儀無くされたライブツィヒの街では、大バッハがカントールとして活躍したルター派の聖トーマス教会の礼拝にも足しげく通い、カンタータやミサ曲の演奏を聴いていたという。この頃から、バッハの『フーガの技法』『カンタータ』などの分析を熱心に行い、特に、知り合った若きクララ・ヴィークと共に『平均律クラヴィア曲集』を手本にフーガを細かく分析し始めている。さらにクララとの結婚後(1840)も過去の偉大な作曲家の作品、パレストリーナ、バッハ、ヘンデル、ハイドン、モーツァルトらの作品の研究を続けており、大変に触発されたい。また、パレストリーナなどのルネサンス音楽の楽譜を相当量所蔵しており、それらを研究していたことから、このフレーズが印象に残り、フーガの旋律として現れたのかもしれない。今日私達は、シューマンを通じて、400年余り前のルネサンス音楽も体験することになる。

最後まで若々しいエネルギーを燃やし続けた生涯

彼がデュッセルドルフ音楽協会の音楽監督のポストにあった頃(1850~1854)、カトリック教会の典礼に基づく宗教音楽の演奏も職務に含まれていた。このため、彼は過去の偉大な作曲家の作品に接しながら宗教音楽の分野に手を染めることとなり、1852年の2月~3月に、『ミサ・サクラ』Op.147を、ほぼ一週間のうちに書き上げた。その直後に、この『レクイエム』の作曲に取り掛かり、相次いで完成させた。けれどもこの頃のシューマンは、さまざまな精神障害と健康状態の悪化に苦しめられていた。それだけに作風はドラマチックだが、決して派手ではなく、どちらかといえば内向的な色彩を持っている。本来の宗教的な典礼として教会での演奏を目的にした作品ではなく、演奏会場でのスタイルをイメージしていたようだ。あらゆる現実の礼拝形式を超越した天で奏でられる音楽を理想郷と捉え、死と生との戦いのなかで自ら抱いているイメージを実現させようと、最後まで若々しいエネルギーを燃やし続けた結果がこの作品ということができる。

ハイドン作曲 オラトリオ「天地創造」Hov.XXI-2 より

旧約聖書「創世記」を題材に

オラトリオというのは、宗教的題材を扱った演劇的な作品だが、オペラのように劇の演出を伴わず、演奏会形式で上演される形式。宗教作品なのに教会ではなく、通常の演奏会場で上演される。この曲は、ハイドン(1732~1809)が晩年となる66歳に、全力を注いで作曲した、彼の音楽の全てが最高の輝きをもって現れている偉大な傑作。旧約聖書の「創世記」を題材に、神による6日間の創造の業と楽園におけるアダムとイヴの幸福な生活が描かれている。全体は、3部構成となっている。

第1部・・・天地創造の第1日目から4日目

第1日目(混沌~光と闇の分別)

第2日目(天空と水の分別)

第3日目(陸と海の分別、草や樹木の創造)

第4日目(太陽・月・星の創造)

第2部・・・天地創造の第5日目と6日目

第5日目(空と海の生物の創造)

第6日目(陸の生物の創造)

第3部・・・楽園に幸せに暮らすアダムとイヴの細やかな愛と神への感謝

つくば・水戸フィルでは昨年6月の第47回公演で取り上げた演目だが、今回は、その中から、第3部の第2曲を抜粋してお贈りする。曲調は、モーツァルト(1756~1791)が生涯の最後に完成させたオペラ「魔笛」を思わせる雰囲気を持っている。作品の完成は1798年、「魔笛」の7年後のことである。